

久原会の皆様 今日は

中棚 保

私は昭和8年生(酉)82歳の末期高齢者の一員です。



筆者は後列向かって右

久原会の会長さんより「何か原稿を」と要請を受けたので国立病院を退職して、上久原町内の一住民となつてからの人生の一部を思い出しながら述べてみました。ご笑読いただけたら幸いです。

60歳で国立病院を退職し、その後会社員として6年間働く。

以後毎日が日曜日となり日々を趣味のコーラスやテニスクラブで時間を過ごしていた。

平成10年に町内会12班(私の住んでいる所)の班長役が順番として廻つて来た。任期は1年、終わりの近づいた年度末、町内会会計担当役

員死亡。会計担当役員を引き受けることとなった。

上久原町内会は町内世帯数が約850世帯、内約750世帯が町内会に参加している。世帯数の多さでは大村市内全町内でも上位から五番以内にある町内である。

班の数が42班ある。年間の町内会費を各班の班長さんが決めた集金日に持参される。年間納付が2回の班、3回・4回班等まちまちである。



大村謡曲愛好会の皆さんと共に

集金日に班長さんが持参してもらうが、その時間帯が問題である。現職の班長さんが多いせいか、出勤前午前7時以前や退庁時夜10時以降等あり、集金日と決めた日は「玄関に座り続けること」になる。

単純に収金業務と云っても大変重労働である。この状況の毎日を7年間やらせてもらった。

上久原町内会には役員推薦委員会なるものがある。その委員会に会計担当役員の辞任を申し入れた。

家内と今年は旅行に行けるぞ、7年振りの大役の終わりを楽しみにして会話は弾む。しかし、人生はなかなか思うようにはならない。年度末のギリギリになって役員推薦委員会のメンバーの来訪をうけた。何事かと思って話を聞くと町内会長職の要請であった。やっと終わりそうな前役職の話より以上に重たいこの役職、数日間家内と話し合った。私の不在の時間は全部家内の役となるため絶対拒否の家内の態度。しかし、町内会運営を考えると無理に断ることも出来ず、その他の役員全員留任の条件で引き受けることとなった。

会長職の最大任期は1期2年、「3期6年を超えてはならない」の規定いっぱい6年を務めることとなる。

役職も押しつけて「させられる」と思えば毎日が苦しくなる。私は役職を「させてもらっている」との考え方で6年の月日を超えることが出来た。

町内会の仕事は、苦しいことも多いが、楽しいことも多い。楽しいことの一つに「忘年会」がある。

12月になると、役職会や趣味の会からお誘いが次々とくる。ひと月で

15回を超えることもしばしば。町内会長には当職(兼職)が多くびっくりするばかりだ。

笑られるかもしれないが次に役職会と趣味会を羅列して皆様に笑ってもらおうと思う。

「上久原町内会」「上久原町内会理事会」「上久原壮寿会」「上久原公民館運営委員」「大村地区町内会長会」「大村市町内会長連合会」「上久原町内青壮年部会」「大村市消防団第一分団後援会」「大村市消防団後援会長会」「大村神社総代会」「玖島稻荷神社総代会」「春日神社総代会」「シルバーメンネルコーラスクラブ」「大村喜明会謡曲クラブ」「大村謡曲愛好会」「木曜テニスクラブ」「大村歩こう走ろう会」「上久原グランドゴルフクラブ」。 以上



皆さんと勢揃いです

以上記した役職会や趣味の会の忘年会を毎年毎年良くぞ欠席もせず参加出来たことを今更のように喜ぶと共に「この体に生んでくれた両親」

や「自分の体」に感謝、感謝である。

今後に残る引き受けた役職を肅々と消化して行くことに全力を尽す所存である。

以上